

授業科目名・形態	コミュニケーション技術Ⅰ 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	山田 克宏	実務経験の有無	有	開講期	1年前期

【授業の主題】

対人援助において、いかに相手と信頼関係を築くことができるか、どのように聴けるかが人間関係に影響を与えると
 言える。他者との意思疎通能力、聴く態度を磨いていかなければ、いくら専門知識を身につけたとしても、利用者・家
 族・多職種と信頼関係を築き、相手を理解していくことが困難となる。

本講では、利用者・家族との支援関係の構築やチームケアを実践するための意義、技法、聴く態度を学び、介護実践
 における生活支援に必要なコミュニケーション能力・態度を養うことを目的とする。

【到達目標】

- 1) クライエントの置かれている状況を理解し、支援関係の構築や思いの表出を支援する観点から、介護実践におけるコ
 ミュニケーションの基本的な技術や態度を説明、実践できる。
- 2) 家族の置かれている状況、気持ちを受けとめながら理解し、家族全体を支えながら介護行為に繋げていくためのコミ
 ュニケーション技術の使い方、態度について説明、実践できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 介護を必要とする人とのコミュニケーション(意義と目的)
- 第3回 介護を必要とする人とのコミュニケーション(役割と効果)
- 第4回 介護における生活支援とコミュニケーション
- 第5回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：話を聴く技法
- 第6回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：感情表現を察する技法
- 第7回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：納得と同意を得る技法
- 第8回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：質問の技法
- 第9回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：相談・助言・指導の技法
- 第10回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：意欲を引き出す技法
- 第11回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：意向を調整する技法
- 第12回 複数の利用者がある場面でのコミュニケーションの技法
- 第13回 その他のコミュニケーション：指示・助言・支持の技法
- 第14回 その他のコミュニケーション：アイメッセージの技法
- 第15回 その他のコミュニケーション：アサーションの技法

【授業実施方法】

講義を中心とし、内容によりロールプレイ、演習を取り入れたものとする。

【授業準備】

- ① 授業前に該当箇所を読んで、分からないことを明確にしておくこと。
- ② 内省を深めることで、自分のコミュニケーションにおける苦手なことを認識しておくこと。

【主な関連する科目】

コミュニケーション技術Ⅱ、介護の基本Ⅰ～Ⅵ、介護過程Ⅰ～Ⅴ、人間の理解Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術論Ⅰ・Ⅱ、日常生活
 支援技術演習Ⅰ～Ⅹなど

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編：コミュニケーション技術(最新版)、中央法規出版、2019。

【参考文献】

- 土井健郎：新訂方法としての面接、株式会社医学書院、2016年
- 早坂泰次郎：人間関係の心理学、講談社現代新書、1979年

【成績評価方法】

授業態度・参加意欲等10%、小テスト10%、レポート20%、期末試験60%の総合評価とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

介護業務・相談業務・日常生活での葛藤からコミュニケーションの難しさ・楽しさ・意味を事例・ロールプレイを交
 えた講義を展開する。

【学生へのメッセージ】

ロールプレイ・演習に積極的に参加し、分からないことを質問するなど主体的に講義に参加してってください。
 また、この講義を通じて、一つでも技術・態度を理解し、体現してってください。